



東小だより

学校だより 5月号
令和6年4月30日
昭島市立東小学校
校長 鈴木 正樹

挨拶あふれる学校に

校長 鈴木 正樹

先日は、御多用の中、保護者会・家庭訪問への御協力ありがとうございました。今後も子供たちの健やかな成長に向けて、学校との協力・連携をお願いします。

新年度が始まって3週間が過ぎました。どの学年の子供たちも新しい学年・学級で気持ちも新たに頑張ろうと一生懸命過ごしていました。5月からは、移動教室や遠足といった校外での活動も増えてきます。疲れもたまってくると思います。ゴールデンウィークは各御家庭で心身ともにリフレッシュして5月からも頑張っしてほしいと思います。

今年度に入ってから東小学校の子供たちの挨拶がとてもよくなったと感じています。「おはようございます。」「こんにちは」「失礼します。」「ありがとうございます。」「さようなら。」様々な場面で、気持ちのよい挨拶が聞かれます。特に感心するのは、自分からすすんで挨拶をする児童が増えてきたことです。私の後方においてこちらが気付かないときや遠く離れた場所からでも「校長先生、〇〇〇。」と元気よく挨拶をしてくれる児童もたくさんいます。

近年、隣近所の人であっても挨拶をしない人が増えていると言われていています。挨拶はコミュニケーションの基本であり、相手を敬う心を表すものです。私は日頃から挨拶があふれる学校づくりをしたいと考えています。経営心理学を専門とするある大学教授は企業を例に挙げて、次のように言っています。

- 挨拶が減るとコミュニケーションのきっかけがなくなり、情報交換が滞る。その結果、「うっかりミス」が多発する。
- 挨拶がさら減り、挨拶の際に声を出さずに、頭を下げるだけになると、多くの社員はストレスを感じ、「意識的に力を抜くこと」や遅刻や欠席が増えて、会社がよくない方向へ向かってしまう。
- さらに状態が悪くなって、頭を下げるどころか全く挨拶をしなくなるとどうなるか。挨拶は、「攻撃性を減らす」という役割がある。よく思っていない相手でも、向こうから明るく挨拶されると怒りが薄れる経験は誰もが必ずあるはず。挨拶が全くない組織では、相手や組織全体への怒りが膨れ続けてしまう。当然その会社はよくない方向に進み、ダメになってしまう。

大人の社会であっても、これほど挨拶は重要なものです。私たち自身が今一度、自分の行動を振り返り、私たち大人が、子供たちのよき見本となり、気持ちのよい挨拶を心掛けることが子供たちの成長にとって大切なのではないのでしょうか。保護者・地域の皆様と一緒に挨拶を通して、子供たちの健やかな成長につなげていきたいと思ひます。御理解と御協力をお願いいたします。